

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人黎明会 南浦くすのき幼保連携型認定こども園	施設 種別	幼保連携型認定こども園
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 5 年 3 月 1 6 日

総 評	<p>南浦くすのき認定こども園は、南浦認定こども園の分園として開設し、平成27年には幼保連携型認定こども園として独立し、現在に至っています。「生き抜く力の基礎を持った子ども」を教育・保育に掲げ、健康・人間関係・環境・言葉・表現の五領域を総合的に取り入れ、知・徳・体のバランスの取れた心身ともに「生き抜く力の基礎」をつちかっています。</p> <p>園庭には自発的に活動できる工夫が随所に施され、隣地に、第二園庭として「くすのき広場」が広がっています。</p> <p>園舎内は採光に優れ、木の温もりと清潔感溢れる保育環境となっています。3～5歳児はバスで南浦認定こども園へ移動し、合同で保育を行っています。</p> <p>和食メニューを中心にした給食内容の充実、薄着習慣の定着を通して、心身ともに生き抜く力の基礎を培うように努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> 園のしおり兼重要事項説明書には、教育・保育を利用するにあたり、利用者が必要と思われる情報を細部にわたり分かりやすく記載しています。 子どもの命と健康を守るため、防犯対策の強化・衛生管理・災害時の対応等を明記し、実践に取り組んでいます。 日々の保育内容をデジタルピクチャーにより、保護者が確認することが出来るとともに、通知や連絡などを専用のメールサービスを利用し、発信するよう努めています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> 法人全体で総合的な人事管理が行われ「期待する職員像」を明確にし、職員との面談を通して、問題点・課題点を整理し、保育者自身の成長に繋げていますが、目標項目・目標水準・目標期限を明確に設定されるとなお良いでしょう。 行事の後や定例会議で保育実践を振り返り、自己評価を行い、次年度へ引き継がれています。今後は定期的に保育教諭が主体となって自己評価を行い、振り返りの材料にされるとなお良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	南浦くすのき幼保連携型認定こども園
施設種別	幼保連携型認定こども園
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	令和5年3月16日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
[自由記述欄]					
1. 法人の理念・基本方針について、ホームページやしおり等に掲載し、法人の各施設の職員が集まり、研修を通して法人のはたす役割を学び、職員間で共有しています。保護者には、入園説明会で説明すると同時に重要事項説明書において周知が図られています。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
[自由記述欄]					
2. 地域の保育ニーズ、利用者に関するデータを収集し、地域の環境や課題を把握し、分析することにより、事業計画を策定し具体的な取組みがなされています。					
3. 経営環境や保育内容、組織体制や設備の整備・職員体制・人材育成・財務状況等の分析を行い、改善すべき課題を明らかにし、園内研修において職員にも周知するよう努めています。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	a
[自由記述欄]					
4. 5. 中・長期計画においては、ビジョンを明確にした事業計画及び収支計画が策定され、必要に応じ見直しが行われています。単年度の事業計画においては、中・長期計画に基づいて策定され、毎年、評価見直しに取り組んでいます。					
6. 事業計画の策定と実施状況の評価や見直しについては、管理者が策定し、その都度職員に周知説明がされていますが、管理者を中心に策定されているため、今後は職員等の参画により策定されることとお良いでしょう。					
7. 事業計画は、園日より、保育参観等を通して分かりやすく周知されています。					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a
[自由記述欄]					
8. 保育の質の向上にむけ、園内での自己評価を毎年実施すると共に、定期的に第三者評価を受診し、分析・検討に取り組んでいます。					
9. 自己評価・第三者評価等の評価結果の分析結果に基づいて、改善の課題を明確化し、職員間で共有化を図るよう努めています。					

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

10. 11. 施設長の役割と責任は、会議・研修において理念や基本方針を職員に伝え、自らの役割と責任を明らかにしています。不在や有事の際の権限委任は組織内で明確化されています。また、遵守すべき法令を理解するため研修等を企画し、職員が参画しています。

12. 13. 施設長を中心に「生き抜く力の基礎をつちかう」を保育目標に掲げ、保育の質の向上、それを支える職員の処遇向上にも取組み、経営の改善や業務の実効性を高める取組を行っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	b	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b	a

[自由記述欄]

14. 15. きょうと福祉人材育成認証制度を取得し、職員処遇の向上、働きやすい職場環境の整備に取組み、人材確保と育成に関する方針が確立されています。

16. 職員処遇向上にむけた人事基準が策定され、職員との面談においてキャリアパスの明確化、職員の意向・希望を聞き取り確認する事により、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	b
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a

[自由記述欄]

17. 法人全体で総合的な人事管理が行われ「期待する職員像」を明確にし、職員との面談を通して、問題点・課題点を整理し、保育者自身の成長に繋がっていますが、目標項目・目標水準・目標期限を明確に設定するとお良いでしょう。

18. 19. 職員一人一人の研修歴を把握し、職員自ら学びたい意欲を優先し、必要な研修に参加できる機会を確保するよう努めています。

20. 実習生を積極的に受け入れ、園のマニュアルに基づいて、オリエンテーション・設定保育等、実習計画を作成するよう取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	a

[自由記述欄]

21. 22. 全国社会福祉法人経営者協議会のホームページに事業や財務等に関する情報を掲載し、社会保険労務士・会計士と契約を交わし、専門的なアドバイスを得て、労務・財務管理を行うよう努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果		
					自己評価	第三者評価	
Ⅱ-4 地域との交流、地 域貢献	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されて いる。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a	
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a	
	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されてい る。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a	
		Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を 行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	b	a
			27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

23. 地域・子育て支援事業の一環として、定期的に「親子リトミック」を開催すると共に、同一法人内で運営している学童保育の児童との交流を日常的に行い、地域と子どもが交流出来るように働きかけています。

24. ボランティアの受入れに対する基本姿勢を明確にし、マニュアルを作成し、中・高校生等の受入れを行っています。

25. 26. 27. 地域・子育て支援事業として、未就園児の親子に対して保育見学・育児相談・南浦広場等こども園が持つ機能を地域に還元しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a

[自由記述欄]

28. 子どもを尊重した保育、人権、プライバシー保護等、園のしおり、重要事項説明書等で利用者を尊重する姿勢が示されています。日常で発生している様々な子どもの人権に配慮する案件については、会議やパソコンシステムにより職員間で情報共有に努めています。

29. プライバシーの保護のマニュアルが作成されています。また個人情報、文章保護のマニュアルも作成しており、それに基づいて取り組みがなされ、全職員の同意書の提出の上、権利擁護に配慮した保育がなされています。

31. 32. 保育の開始、変更、保育の継続性についても園のしおりの重要事項説明書で配慮した対応に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

33. 苦情解決責任者、受付担当者、第三者評価委員を設置し、その仕組みを園内に掲示するとともに、結果については保護者に配慮したうえで周知しています。

34. 35. 定期的に保護者からアンケートをとり、意見がある場合は、園長、主幹、保育教諭と意見を共有して会議の中で検討し、話し合った内容を保護者に伝え、また保護者と面談した内容は園児管理システムにて職員間で情報を共有しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

36. 安心、安全の確保に関してはパソコンシステムにより、リスクマネジメントについて情報を共有して改善に繋がるように取り組んでいます。

37. 感染症対策は、マニュアルが作成されていて感染症発生の際には、保護者に掲示板、一斉メールで感染状況を発信しています。

38. 年に一度、府の事故防止対策巡回指導事業を活用して園内研修を行い、職員の安心、安全のための意識づけの体制が構築されています。地震・豪雨・大雪等に対して安全確保の為に組織的に訓練をしています。

39. 不審者侵入の為のマニュアルが作成されており職員間で情報を共有し、訓練を行っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a
[自由記述欄]					
<p>40. 41. 園の目指す保育（0歳～6歳）は一貫性のある保育の実施方法が作成されており、年間指導計画にそって保育を行っています。年間指導計画は年度末に評価反省をして保育の見直しを行い、次年度につなげています。保護者の意見は、園長を中心とした会議等で見直しをする仕組みができています。</p> <p>42. 43. 配慮、支援が必要な子どもに対しては保護者面接、関係機関と打ち合わせ等アセスメントを行い、職員会議で共通理解の上、計画を実施し評価見直しをしています。指導計画作成責任者を設定して振り返りや評価を行う仕組みが構築されています。</p> <p>44. 一人一人の保育状況は、パソコンシステムを使用して子どもの発達記録を作成し、全職員が子どもの情報を共有する仕組みが整っています。</p> <p>45. 記録の書き方に誤差が生じないように会議で互いに確認しています。特に個別のケア記録、事故記録、保護者の意見は特に大切に共有しています。</p>					

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
		48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

46. 「生きぬく力の基礎を持った子ども」を育むことを教育・保育目標に掲げ、全体的な計画を作成し保育実践に取り組んでいます。

47. 近年の災害や事故、感染症など安全を脅かす出来事から子どもたちを守り、より一層心地よく過ごすことのできる場を提供するため、隣接した広場を園庭として使えるように整え、毎月の避難訓練時や野菜を育てる場等に活用しています。

48. 49. 50. 各保育室は0歳から6歳まで年齢に応じた机、椅子、ロッカー、おもちゃなどが使われ、日々を楽しく過ごしながら生活習慣が身につくように様々な工夫をしています。また、3～5歳児はバスで南浦こども園へ移動し、合同で保育を行っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

51. 52. 53. 「生きぬく力の基礎を持った子ども」を育むことを教育・保育目標に、①乳幼児からの運動あそび、②給食内容の充実、③薄着の習慣、に取り組むための年間計画があり、0歳児から年長児までの運動遊びや総合教育・保育活動に反映されています。「散歩は最後まで歩く」「給食の材料は地産地消を心がけ業者と十分話し合い発注する」「薄着の習慣は0歳児から」といった具体的な方針に基づいて「知・徳・体」のバランスのとれた子どもに育つことを特に重視し、0歳児から年長児まで一貫性の高い教育・保育を提供するよう努めています。

54. 障害のある子どもが安心して生活し、楽しく過ごすための環境(静かにあそべる部屋等)を整備し、保育の内容に配慮しています。

55. 56. 学童保育があり、小学生になってからもわが家へ帰るように園に来て園児と交流をしています。その姿に子どもたちは憧れを抱き、大きくなることに希望が持てるよう努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

57. 58. 園児の内科健康診断、歯科健診は1年に2度ずつ行われ、保護者に結果報告をするとともに、それについての保護者からの相談にも関係機関と連携を取りながら対応するよう努めています。

59. アレルギー疾患のある子どもには適切なケアに努め、保護者と連携を取り、就学までに何でも食べられることを目標に少しずつ進めています。

60. 給食は自園で栄養士・調理師・給食担当職員が1食に50品目の食材を取り入れるように努め、和食を中心に献立を作成しています。毎朝のおやつは自園で発酵させた無糖のヨーグルト、3時のおやつも全て毎日手作りで、栄養状態に配慮しています。

60. 61. 食材については、良質の材料を吟味し、子どもたちが喜んで食べられるように工夫を凝らして調理しています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	b

[自由記述欄]

62. 職員は保護者と日々コミュニケーションを取り信頼関係を築くことを心がけています。

63. 保育参観や発表会等の行事を通して保護者の思いや悩み事などを共有できる機会を設け、職員が共通認識できる仕組みがあります。

64. 家庭での虐待に関しては主幹が窓口になり、児童相談所等の関係機関と連携を取り、保護者については児童虐待初期対応ハンドブックに基づいて対応するように努めています。

65. 行事の後や定例会議で保育実践を振り返り、自己評価を行い、次年度へ引き継がれています。今後は定期的に保育教諭が主体となって自己評価を行い、振り返りの材料にされるとな良いでしょう。